

コンセルヴァトワール式 運指のすすめ。

この指使いはシステムが要求する「取り扱い説明書」みたいなもの。知らないでは済まされない。

現代のオーボエが開発されたと同時に編み出され、100年以上もの伝統がありながら日本ではいまだその正式な指使いが十分には浸透していないコンセルヴァトワール式の運指。東京フィル首席の加瀬さんは、「高音域を安定して演奏するには必須のもの。もっと広く認知されて欲しい」と呼びかける。

取材協力 日本ダブルリード株式会社 田口元信

東京フィルハーモニー
交響楽団
首席オーボエ

Profile
1973年千葉県生まれ。高校時代にオーボエを始める。国立音大卒業後、ジュネーブ音楽院に学び、同院を一等賞とアンリ・プロリエ賞を得て修了。ローザンヌ・シンフォニエッタ客演首席を経て1999年帰国と同時に大阪フィル第1奏者。第6回国際オーボエコンクール・東京に入賞。第27回トゥーロン国際コンクールでヴァロワ・ド・パリ特別賞、第19回日本管打楽器コンクール1位。2006年東京フィル首席に就任し現在に至る。オーボエを似鳥健彦、丸山盛三、モーリス・ブルク、ローラン・ベルヌーの各氏に師事。木管三重奏団「トリオ・レスベランス」、[なにわ(オーケストラ)ウインズ]メンバー。また来春より洗足学園音楽大学で非常勤講師を務める。

加瀬 孝宏

かせ・たかひろ

——まず問題の所在からお願いします。
加瀬 オーボエではコンセルヴァトワール式が世界中で使われていますが、同じコンセルヴァトワール式の楽器を使っている人も、高音域の指使いがじつは二派に分かれているんです。

一つは、ドイツや日本の大多数の人たちが使っている指使い(便宜上ここでは「ドイツ・スタイル」と呼びます)、もう一つは、フランスはじめラテン系の国々やアメリカなどで使われているコンセルヴァトワール式の指使いです。

ハイCまではどちらも同じなのですが、「ドイツ・スタイル」ではコンセルヴァトワール式のキイに若干の調整を加えて、ある音を鳴らしやすくしたりするために、ハイC#から上の運指でコンセルヴァト

ワール式とは違ってきます。もちろんどちらも、より良い音や鳴らしやすい音を求めるといった目的は同じですので、どちらが正しいというよりは、流派やスタイルの違いということだと思います。

「ドイツ・スタイル」の場合は、高音域は人によって指使いが異なるので、自分で最適なものを探さないという立場、それに対して、楽器の開発途中から運指をシステム化したのがコンセルヴァトワール式です。コンセルヴァトワール式にとって指使いは「取り扱い説明書」みたいなもので、「この指使いで使ってください」というのを求めている。であれば、本来それについてきちんと知っておいた方がいいのではないですか、というのが僕の考えです。

なお、オーボエにはセミ・オートマチック・システムと第2オクターブキイのないフル・オートマチック・システムがありますが、後者も基本的にはコンセルヴァトワール式ですので、これからお話しすることはフル・オートの方も十分応用出来ます。フル・オートはキイの連携が若干異なりますが、右手薬指とローHDキイの連携を切ってしまうえば確実に高音域は鳴ります。フル・オートの利点は少し失われてしまうかもしれませんが、安定した高音域を得るためには致し方ないところですね。

——コンセルヴァトワール式の楽器を使っている人も、日本ではその運指を知らない人が多いのですか？
加瀬 多くの人が知らずに来たんですね。

する気にもならない。でも日本に来て教えてみたら、あれ、この子も違う、この子も違うとなって、それを日本人の問題として意識して教えるようになったのがインデアミュレだったと思うんです。

二つの「調整」による影響

——運指の話はオーボエ以外にはとても煩雑ですので、運指表と加瀬さん

の解説は別に掲載するとして、それでも、「ドイツ・スタイル」の人たちがコンセルヴァトワール式に加えている「調整」の話には触れないといけません。

加瀬 問題になるのは2箇所だけです。

① ローCキイとEキイが連動してきちんと閉じているか？
② 左手人差し指のH(B)キイの穴を埋めないで、かつ普通に上下に動くかどうか

僕自身も大学3年まで知らなくて、1993年に草津でトーマス・インデアミュレのレッスンを受け、そこで初めて教わったんです。おそらく、日本できちんとその意味を教えてくれたのはインデアミュレが最初だったのではないでしょう。フランス人たちにとってはその運指が当然だと思っているから、誰もあえてそれを検証しようとはしないし、説明

